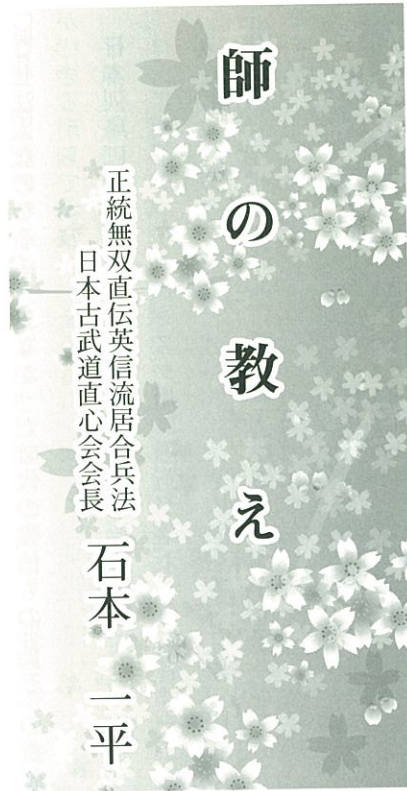


部理事の先生方に、進むべき指針をご指導頂き武徳会の新しい歴史が「ここから始まる」の基、さらなる飛躍を図って頂きたいと願います。本年も宜しくお願い申し上げます。

合掌



平成二十四年六月十九日、正統無双直伝英信流居合兵法師家であり、日本古武道直心会会長三浦武之秀房範士が逝去いたしました。生前は、大日本武徳会の先生方に大変お世話になり、ありがとうございます。誌面をお借りいたしまして厚くお礼を申し上げます。

三浦範士は、昭和五十年六月に日本古武道直心会を創設いたしました。武歴は多種にわたり修行され、無双直伝英信流居合術は、正統第十七代範士大江正道直門第十八代範士政岡壹実先生、同じく大日本居合道八垣会会長範士成瀬栄広先生につき、入門師事し、教えを受けております。神道無想流杖術は、第二十五代清水隆次先生高弟範士中嶋浅吉先生、古伝各種武術を円心流居合据物切り剣法宗家三世範士小橋日感先生、九鬼神流棒術を心月無想柳流宗家十一世範士加納武之先生に師事されています。また、抜刀術は、

戸山流抜刀術連盟より範士八段を受けております。

晩年は、故郷の島根県に居を移され、地元で道場を開き指導をしておられました。数年前から足を不自由にされておりました。しかし、晩年に至るほど心と技は精妙を極め、入神の域に達しておられたと思います。

石本は、三浦範士の弟子であるとともに親族でもあります。親族でなければ知らないことですが、三浦範士は、夜になるとしばしば日本刀や木刀などの武具を持って家を抜け出し、一時間ほどしてから誰にも気づかれることなく家に帰ってこられたと聞いております。八十歳を過ぎても、同じような行動をされておられたそうです。つまり、自らの境地を切り開くため、日々怠り無く、修行をしておられたということです。

三浦範士は生前、島田虎之助先生の言葉である「心正しからざれば、剣又正しからず。すべからく、剣を学ばんと欲する者は、まず心より学べ」を門下に教え説いておられ、道場には「剣心一致」の額が掲げられておりました。また、「心高慢にして剣法を軽んじ、いたずらに我流に走れば剣も又寄癖に流れるものなり、天狗になるな、慢心するな、天狗が芸の行き止まりとするべし」と門下に厳しく教えを説いておられました。

この度、正統無双直伝英信流居合兵法と日本古武道直心会は、石本が三浦範士から継承いたしました。日本古武道直心会は、門下生一同、三浦範士の教えを堅く守り、日本の古武道の保存・伝承・振興に努めると同時に、一般社団法人大日本武徳会に微力ながら寄与したいと考えております。